

「解答例等」・「出題の意図」

研究科・選抜区分・専攻等	2026 年度 法学研究科 （選抜区分：一般選抜【夏期日程】） 研究者コース (科目：英語)
出題の意図 (評価のポイント)	問題文の出典は Laver, Michael. 2006. “Legislatures and Parliaments in Comparative Context.” In Barry R. Weingast and Donald A. Wittman eds. <i>The Oxford Handbook of Political Economy</i>. Oxford: Oxford University Press. による。ただし出題に際し原文の一部を改めた。 本問は、執政制度の代表的類型の一つである議院内閣制について、その制度の根幹的部分を解説した文章の和訳を求めるものである。議院内閣制における「議会 (parliament)」は、政体における立法作用を担う機関という意味での単なる「立法府 (legislature)」であるにとどまらず、委任による執政府の創出と、責任追及による執政府の交代という機能をむしろその本質とする機関であることを示したうえで、こうした機能の制度的表現としての信任/不信任投票について解説するという標準的な内容であり、文意を十分正確に把握することがまず求められる。 文体も平易で、複雑な構文なども含まれていないため、まずもって文法的に正確な読解が出来ていることが解答から十分うかがえることが最低限求められよう。加えて、「信任 (confidence)」など、定訳のある重要概念については、それに倣って正確に訳出できていることも評価のポイントとなる。